

# 市民協働事業 相互評価シート

## 1 市民協働事業の概要

事業名称	「大規模団地における大学生による地域支援活動事業」委託	
事業の実施者	団体等	NPO 法人オールさこんやま
	行政	横浜市旭区役所区政推進課
事業の目的	地域活動の担い手不足解消と地域コミュニティ活性化のため、横浜国立大学の大学生又は大学院生が左近山団地に居住しながら地域活動に参加をするために必要な取組を行う。	
事業の内容	(1) 大学生の募集・管理 (2) 大学生が行う地域活動の支援 (3) 居室の賃貸借 (4) 電動バイクの管理 (5) 連絡会・検討会等への出席・協力	
役割及び責任分担等	別紙資料参照	
実施期間	平成31年4月1日から令和2年3月31日まで	

記入日	令和 2 年 6 月 2 日
記入者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体等名： 特定非営利活動法人オールさこんやま</li> <li>・記入責任者 理事長 氏名： 林 重克 連絡先： 045-744-6585</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部署名： 横浜市旭区役所区政推進課</li> <li>・記入責任者 大規模団地再生担当 氏名： 馬立、中島 連絡先： 045-954-6027</li> </ul>

**別紙資料** 役割及び責任分担等

事業項目	受託者の役割	委託者の役割
大学生の募集・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集チラシ等の作成協力、周知</li> <li>・入居申込書の受付</li> <li>・申込状況の情報共有</li> <li>・大学生等との連絡調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集要項及び募集チラシ等の作成、周知</li> </ul>
大学生が行う地域活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生用活動メニューの作成に協力</li> <li>・大学生の活動上の事故等に対する補償のための保険加入</li> <li>・大学生の活動計画への助言</li> <li>・定例会の開催</li> <li>・大学生の地域活動の支援</li> <li>・大学生の活動報告への承認</li> <li>・大学生の活動状況の区への報告</li> <li>・大学生に対し、地域活動補助金を支給する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会に参加</li> <li>・大学生の地域活動の支援</li> </ul>
居室の賃貸借	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賃貸借契約締結（URと受託者間、及び大学生と受託者間）</li> <li>・URに家賃、敷金・共益費の支払い</li> <li>・大学生から家賃・共益費を毎月徴収</li> <li>・大学生の退去申出書の受付</li> <li>・賃貸借契約の解除手続き、敷金の精算等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賃貸借契約の内容等の検討</li> </ul>
電動バイクの管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電動バイクの管理</li> <li>・自賠責保険加入。大学生が加入する任意保険の確認</li> <li>・故障時の連絡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電動バイク事業者との借受方法等の検討</li> </ul>
連絡会・検討会等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会・検討会等に出席、資料提供協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会・検討会等を主催</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の総合調整</li> <li>・UR及び大学等との連絡調整</li> <li>・大学生の相談対応</li> </ul>

# 1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないました。

## ◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

### ①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	A	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B

### ②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B

### ③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	A	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

### 3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成しました。

<b>事業の計画づくり</b> (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
<b>【共有できたこと】</b> ○専門家に学生の議論のファシリテイトを委託したことで、コンセプトを確立することの重要性や議論のゴール設定が明確になった
<b>【課題】</b> ○学生の自立的運営の推進と区、NPO 法人とのコミュニケーションのバランスを取りながら進めること
<b>事業実施</b> (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
<b>【共有できたこと】</b> ○事業関係者が増え、多角的な視点で活動の分析ができた ・学生の地域活動にノウハウのある専門家をファシリテーターに招いたことでより多角的に議論が進んだ。また他の学生の活動グループとの交流の機会も増えたことで活動の参考になった ・大学の研究室と連携したアンケートにより、住民が大学生の活動をどうとらえているかが明確になった。 ○学生募集の PR 方法について ・大学と協力してもらい、新入生向けに新メンバーの募集活動を実施したところ 3 名の募集につながった。学生が他のボランティアや講義の予定が決まる前にアナウンスすることが有効であることがわかった
<b>【今後改善が必要と思われること】</b> ○学生の活動状況の把握 ・学生の活動状況、近況の把握が十分でなかった。きめ細かなコミュニケーションをとりながら、報告・連絡・相談を徹底するよう学生に促す ○学生の自律的な運営 ・学生内の役割分担が不明確であることや参加の頻度に偏りがあった。今後学生が自律的に活動を行えるよう最低限の約束事を定める必要がある
<b>事業の成果</b> (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)
○多様な主体の企画の実施 ・入居大学生の活動がきっかけで他の学生が左近山団地でイベントを実施するなど、多様な主体が左近山団地に関わるきっかけになった ○自立化に向けた活動資金確保 ・学生が中心となり、普段から交流のある団地の大人たちを対象によこはま夢ファンドを活用した寄付金集めを実施。一定の寄付額の獲得につながった ○地域等の関心の高まり ・横浜国立大学の藤岡研究室が実施した地域住民へのアンケートの設問「学生にしてほしいこと」で住んでくれるだけで良いがトップ回答 (52%) となり、住民の半数以上が大学生に対して好感をもっていることがわかった。 ・活動報告会を Facebook でオンライン配信。動画の再生回数が 500 回以上 (5 月 8 日時点) の反響があった
<b>自由記入欄</b>
○地域住民の理解を得るために学生の活動の周知が引き続き必要である。 ○活動の自立化に向けて、活動資金の獲得が喫緊の課題でありよこはま夢ファンドを活用した寄付金集めは広報の方法等、工夫しながら行っていく